

## 少年抱擁

常に静かに地鳴りを私の足に伝え  
丈の低い草をのみその上に載せることを許し  
青々とした天空とその広大さを競う平らな大地  
この雄渾な神話の、ただ響きのみをその荘厳な姿に残し  
吹雪、嵐、疾風のうなりも力をふるう対象を見出せず  
ただ静かに空振りするのみの  
威厳の腕組みする深く厚い大地

この平地の上で私の吹く笛の音は立ち消える  
笛の音を遮る山も丘もない、まさにその故に・・・  
私の叫びはどんなにしても切れ切れで

細い草木をなびかせるにも足りなく、<sup>むなむな</sup>虚々しい

ここではむしろ貴方のように黙していることが響きを放ち  
静かな一言を私の前で消え入らせることが  
時と時の狭間に永劫の生命を不動のものとする

これが私と貴方と大地の胸の鼓動だ  
そうだ、貴方が傍に仰向いていることに  
僕は今さらのように晴れ晴れと驚き、手を差し出す  
貴方が私の手をしっかり握った下には、そうだ  
そうだ、大地がどっかと横たわり  
僕らとともに、どきどきと心臓を速くする  
そうして大地に届いた光がはねかえる先を3人が見れば  
そうだそこには、青く光る  
でっかい大地のでっかい兄貴が見下ろしていた

(1982.4.7)